

市区町村名	山形県 山形市	担当部署	企画調整部企画調整課
		電話番号	023-641-1212

1 取組事例名

政策テーマディスカッションによる懸案解決 ～トップ参加によるスピーディな意思決定～

2 取組期間

平成28年度～（継続中）

3 取組概要

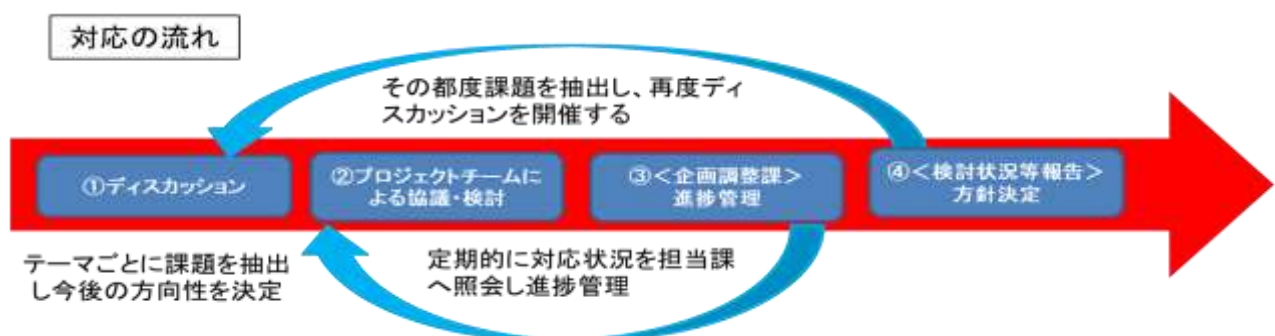
部署横断的な課題に対して、市長又は担当部長等が関係職員を招集し、政策テーマごとに適時ディスカッションを開催し早期解決を図っていく。

4 背景・目的

担当部課等だけでは中々問題が解決しない又は前に進まない案件等について、関係職員全体でトップの意向を確認しながら情報の共有化を図るとともに、今後の方向性を揃えていくことを目的としている。

5 取組の具体的内容

トップの意向を迅速に共有するとともに、縦割り行政の排除及びメンバーの士気高揚による効果的効率的な解決を図るため、平成28年度より、昼食の時間等を活用し、市長、両副市長のほか、政策テーマごとに関係部署から職位を問わず業務に精通した担当職員が参加し、活発なディスカッションを実施している。



ディスカッションにより、方向性や担当部署が決まった政策テーマについては、関係部課等で構成するプロジェクトチームを結成し、適時、会議の開催や進捗状況の報告を行いながら、全庁を挙げ専門的な見地から早期の課題解決に取り組んでいる。

<政策テーマディスカッションの状況>

平成28年度：14テーマ、17回

平成29年度：10テーマ、10回

平成30年度：11テーマ、15回

令和元年度：19テーマ、21回

令和2年度：16テーマ、17回

令和3年度：8テーマ、8回

令和4年度：3テーマ、3回（令和4年5月19日現在）

実施内容の一覧は別添資料1のとおり。

<政策テーマディスカッションから開始した取組の例>

①新型コロナウイルスワクチン接種プロジェクトチーム

新型コロナウイルスに係るワクチン接種を円滑で迅速に実施するため、庁内における組織横断的な調整を行うプロジェクトチームを設置。令和2年2月17日の第1回プロジェクトチーム会議から始まり、これまでに25回会議を開催。（令和4年5月17日時点）

プロジェクトチームによって、全庁を挙げた協力体制及び関係機関との連携体制を構築し、対応にあたった。65歳以上の高齢者へのワクチン接種の予約受付に係る問い合わせ等への電話対応業務、ワクチン接種に向けた案内文書等の封入・封かん作業、集団接種のWeb予約受付サポート業務、「山形市新型コロナウイルスワクチン空き待ちバンク」登録者への電話連絡等業務、ワクチン接種記録入力作業、集団接種会場（山形ビッグウイング）運営サポート業務、ワクチン接種費用の支払いに係る内容確認・点検等補助業務において全庁から応援職員を派遣、延べ1,910人以上が対応した。

結果、令和3年9月14日の日本経済新聞朝刊に、全国の県庁所在地・政令市・東京23区におけるワクチン接種率最高は山形市と報じられた。ワクチン3回目接種実績においても、全世代の接種率が68.9%（令和4年5月15日時点）で、首相官邸が発表している全国の接種率57.0%と比較しても高い水準を保っている。

②政策提案チャレンジ事業

若手職員が市長をはじめとする幹部職員へ直接政策をプレゼンし、ディスカッションを通じて市の政策に自分の考えを反映できる機会を設けることにより、下記2点の実現を図ることを目的とする事業。

- ・前例踏襲を打破し、新たな発想を持って効果的・効率的に業務を遂行できる人材の育成
- ・若手職員のアイデアを管理・監督職員が実現に向けてバックアップしていく組織風土の推進

政策テーマディスカッションの場では、事業スキームの構築を行い、提案する政策のテーマを2本に定めた。令和3年度に事業開始となつてから、若手職員13名が計8回のワークショップやフィールドワーク、トークセッションなどでアイデアを膨らませ、政策提案プレゼンテーションを実施。結果、2本の政策テーマに対して5本の政策案が提案され、全ての事業が見事採用された。今年度は、令和3年度に採用された事業案を具体化し予算化するため、兼務辞令の発令により2つのプロジェクトチームが結成された。また、新たに提案する政策のテーマに設定し、令和3年度とは異なる若手職員が政策提案に挑戦する。

●政策提案チャレンジ事業の詳細

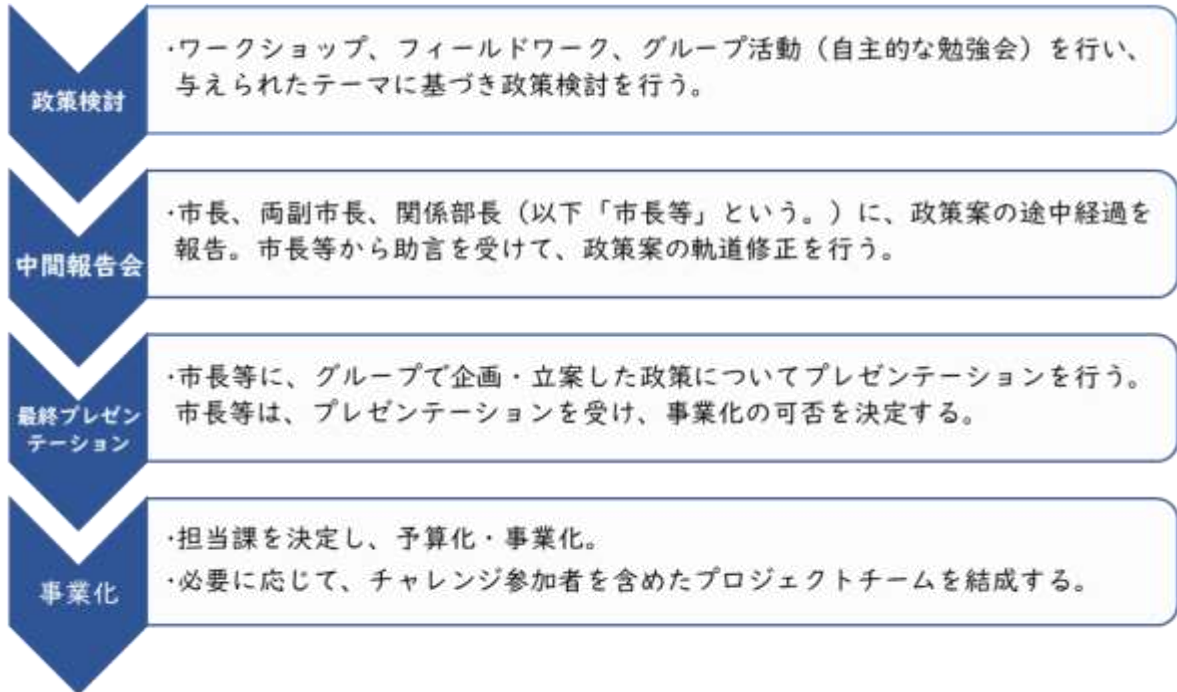
ア 参加対象職員

概ね20代から30代までの職員（全部局対象）

イ 募集人数

10～15名程度（所属を超えた組織横断的な編成とする。）

ウ スキーム



<令和3年度 of 取組状況について>

(1) テーマ

- ・ 「ラーメン消費量日本一の山形市」を全国にPRするためには
- ・ 現在整備中の霞城公園を今後市民、観光客にとって魅力ある賑わいの空間にするためには

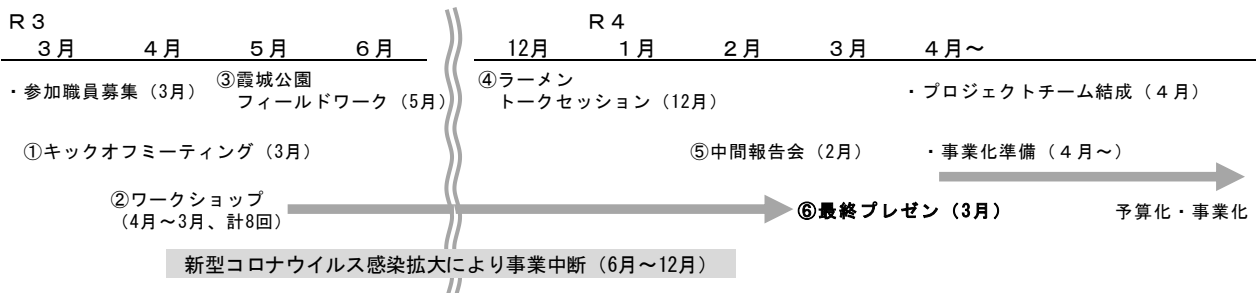
(2) 参加職員

13名（ラーメン：2グループ、霞城公園：1グループ）

(3) ファシリテーター

まちづくりファシリテーター 稲村理紗氏

(4) スケジュール



(5) 事業の様子

○ R 3 年 3 月



○ R 3 年 12 月



④ ラーメントークセッション

○ R 4 年 1 月



○ R 4 年 2 月

⑤ 中間報告会

○ R 4 年 3 月



⑥ 最終プレゼンテーション



(6) 最終プレゼンテーションの結果（すべて採用）

No.	提案事業名	提案概要
1	山形ラーメンブランディング事業（名刺×ラーメン）	推しのラーメン店の情報と2次元バーコードを名刺に印刷。バーコードから、クーポンの発行やアンケートなどを実施する。
2	山形ラーメンブランディング事業（大鍋×ラーメン）	芋煮の大鍋でラーメンを振る舞う。イベント（成人式やJリーグ公式戦など）に出店する。情報誌とタイアップし、大鍋調理のラーメンレシピコンペを実施する。
3	山形市ラーメンDAY制定	ラーメンDAYを制定し、ラーメンイベント（ラーメン給食、新潟市とのダービーマッチ等）を開催。Instagramを活用しラーメンDAYの広報を図る。
4	デジタル映像コンテンツを活用した魅力の発信	AR、VR技術を活用し、現地の案内、武将AR、プロジェクションマッピング、歴史体験、刀剣VR、デジタル屏風、非接触デジタルサイネージなどを実施する。
5	メタバース空間を活用した新たな魅力の創生	メタバース空間を活用し、仮想空間で、山形城案内ツアー、映画鑑賞（ドキュメンタリー映画祭）、ふるさと納税などの体験、商店街や民間事業者とのコラボを図る。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

市長をはじめ、担当部長等関係職員が一堂に会することで、トップの意向を確認しながら各部署の視点からの意見や判断をすぐに得られ、全員の意思疎通を図りスピード感をもって仕事を進める事ができる体制となるよう工夫した。

7 取組の効果・費用

縦割り行政を改善するとともに課題の早期解決を図るため、市長はもちろん担当部長等が他部関係職員を招集してディスカッションを開催することにより、解決の障害となっている問題点や市としての方向性を明確にすることができた。ディスカッションを経て、多くのテーマで事業の具体化を達成している。

令和2年の政策テーマである「ワクチン接種について」のディスカッション後に結成したプロジェクトチームが構築した全庁を挙げた協力体制及び関係機関との連携等により、令和3年9月14日の日本経済新聞朝刊に、全国の県庁所在地・政令市・東京23区におけるワクチン接種率最高は山形市と報じられた。ワクチン3回目接種実績においても、全世代の接種率で全国平均を10%程度上回っている。また、「政策提案チャレンジ事業」においても、山形市独自のユニークな取組として地元マスコミにより複数回報じられ、注目を集めている。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

政策テーマディスカッションでの協議により、新型コロナウイルス感染症対策を山形市の最重要課題として全庁を挙げた協力体制を組むこととしたことで、保健所の体制強化に係る必要人員を各課から応援職員として計画的に派遣している。

それに伴い、人員が不足した課等では事業の中断を迫られることもあった。「政策提案チャレンジ事業」もその影響で約半年間の中断期間があり、苦労して取り組んだ事業であった。

9 今後の予定・構想

部署横断的な課題については、適宜、政策テーマディスカッションを開催し、縦割り行政を改善するとともに引き続き課題の早期解決を図っていく。

10 他団体へのアドバイス

スピード感のある課題解決のために、政策テーマディスカッションのスキームは有効であると考えている。部署ごとに異なる意見を持っている場合や、多岐にわたる部署で取り組む事業など、ディスカッションのスキームが活用できる機会は多い。

11 取組について記載したホームページ

市長のやまがた自慢「ワクチン接種率 主要都市日本一」

https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/shisei_joho/shicho/1006787/202111.html